

ノシメトンボ

草刈をしている回りをトンボ達が盛んに飛び交っていました。まだ7月下旬なのに秋を思わせるトンボでした。連結してはいませんのでやはり夏のトンボなのです。和名はノシメトンボ。羽の先が黒いので識別できます。アキアカネ同様にアカネ属の仲間では北海道のトンボとしてはポピュラーです。このトンボのお蔭で、蚊取り線香を焚いてはいましたが、まったく蚊の気配がありません。うっかり飛び出した蚊はたちまち餌食にされてしまうでしょう。童謡「赤とんぼ」に詠われたのはこれらのアカネ属とされていますが、ノシメはあんまり赤くはならないようです。写真は上が♀で下が♂、♂は成熟すると胴が赤ではなく赤味のあるこげ茶色になります。

発生は6～11月とされていますが、北海道では後ろが10月頃でしょう。体長37～42mm、分布は日本全土に及びます。

当別青山のオイスカ担当区には2004年の秋の植樹から参加し、草刈は2006年から毎年参加しています。この日の草刈は最終植樹2010年およびその前年に植樹した部分をやりました。特に2010年に森ボラ単独責任で植えたケヤマハンノキはたったの3年で成長の良いものではやくも3mにも樹高が伸びていました。同時に植えたトドマツはまだ2年は草刈が必要な段階です。この日に刈った部分以外の部分は樹高がオオハンゴンソウやキクイモの草丈を超えていますので、以後草刈の必要はありません。



この日は作業場所が支笏湖鵜柵舞と盤溪と当別の3ヶ所もあり、それぞれに分かれての忙しい日で、当別には4人で支援。草刈機3台を持ち込み、オイスカの4台とあわせて7台を動かしましたので、手刈人数と合わせて20人ばかりの参加者で、午前中に予定を終了し、昼飯後解散となりました。

←植樹最終年のケヤマハンノキ